



gomen, mada, jumbichu.

おめ、まだ準備中。

そこは、劇団うりんこの上演会場。今日は、劇団の大物俳優、うり川りん太郎のひとり芝居「シン・リア王」の上演当日。間もなく開演時間だというのに、りん太郎は寝坊し、劇場入りが1時間遅れるらしい。場内スタッフとして参加していた、劇団うりんこの若手俳優、シュウスケ、エリ、コウキの三人は、りん太郎が現れるまでの時間をどうにかつなぐことになってしまった。その60分の物語。

人間は、その身のうちにあることばにできないものを、例えば踊ることで、例えば音をかき鳴らすことで、誰かと分かち合おうとするものです。この作品は、そんなことばではないものに、若い俳優たちが挑む姿を通して、そのことばにならない思いを感覚として、劇場で体感していただけたらと思っています。また、劇中ラジオから流れる「声にできなかった声」は、実際に中高生たちが書いた日記を集め、引用しています。

キャスト

宮腰 裕貴



新潟県に生まれる。ミュージシャンに憧れバンドを結成。高校生で初ライブをするも、思い描いた感覚と違い辞める。俳優を目指し上京。今に至る。

山内 周祐



1998年2月5日名古屋に生まれる。高校生の時にフランスで石焼き芋屋をすと志したものの、特に具体的な検討もせず今に至る。

高島 絵里



嫌いな物は吐き出し、3秒で迷子になるような子が成長し役者になった。外側だけ。嫌なものは嫌だしすぐ迷子になる。参ったね。

スタッフ

作・演出 = 永山 智行 (劇団こぶく劇場)



投手として甲子園を目指すはずだった野球少年は、三人しかいない演劇部がかわいそうになり、あっさり野球を捨てたのでした。

振付 = 古家 優里 (プロジェクト大山)



忍者に憧れていた幼少期、幼馴染のヨシコちゃんやっていたバレエを見て、踊ることに忍者と同じ身体のスペシャリズムを感じバレエを始める。

美術 = 土岐 研一



インディアナ・ジョーンズに憧れて渡米した少年は、その後演劇の世界に。帰国後、火事で全てを失うも素敵な演劇仲間 に救われて今に至る。

衣裳 = 南野 詩恵 (お寿司)



衣裳を作ったのにクレジット(名前)を書いてもらえなくて30歳の時に作・演出・衣裳を担当する舞台芸術団体「お寿司」をつくる。

音楽 = 栗木 健 (The Screen Tones)



子供の頃テレビでYMOを見て衝撃が。以降音楽に目覚めドラマーに。でも、大人になって曲を作らないと食べていけないと気付く。

照明 = 福井 孝子



科学忍者隊ガッチャマンになる夢を諦めておらず、今も南部博士からの招集を待っている。動物好きの照明家は、世を忍ぶ仮の姿。

宣伝美術 = 伊藤 祐基



ひよんな縁から横浜のランドスケープデザイン事務所に入社するも、「素材が重すぎる」という理由でグラフィックデザイナーに転向。今に至る。

映像 = 雨音 テン (KYARAKOI.act)



自己肯定感の低さ故、演じている時のみ「私今、生きている...!」とキラキラした10代から「私何でもやります!」マイインドへ。

あなた観客 =



生まれ.....
.....
.....
.....
今に至る。

↑作品ページ4月公開予定



TEL. 052-772-1882 FAX. 052-771-7868
465-0018 名古屋市名東区八前一丁目112番地
URL. www.urinko.jp Mail. info@urinko.jp